平賀町の農業と出稼ぎに関する考察

鈴　木　美　香

「ある地域に出稼ぎ多いのは単一の要因によるのではなく，複数の要因の組み合わせがあるためである」という考えに基づいて，青森県中津軽郡平賀町に出稼ぎが多いのは，どんな要因の組み合わせのためであるのかを考察した。

平賀町は農業を基幹産業としていて，農業に対する依存度が非常に高く，特にリンゴの栽培が盛んな地域である。リンゴは商品価値が高いのだが，一般に農業収入は不安定で第２次産業や第３次産業で得る収入よりも少ない。平賀町の町民所得は全国はもちろん，青森県全体と比べた場合でもかなり低くなっている。専業農家は全体の10％以下で，その他の農業は何らかのかたちで兼業をしている。出稼ぎも兼業の一種である。

津軽地方はヤマセの影響を受ける寒冷な地域で凶作になることが度々あり，昔から貧しかった。出稼ぎの歴史は古く，戦前は北海道へのニシン漁業に出かける者が多かったが，現在では主に関東地方で製造業・建設業に従事する者が多くなっている。

出稼ぎに夏型と冬型，通年型があり，リンゴを栽培している農家が多い平賀町では，作業の関係上冬型の出稼ぎが多い。しかし近年のバブル景気に伴う首都圏の賃金の上昇のために夏型・通年型の出稼ぎも増える傾向にあった。

出稼労働者が重要視するのは距離の遠近よりも賃金の多少であり，賃金の安い県内に出かけて行く者はほとんどいない。平賀町と首都圏の賃金の格差は大きく約２倍である。

年齢別に出稼者の違いを見ると，若者は農作業に煩わされることがなく自分のために，世帯をもつ者は農作業に差し支えないようにして，家族のために出稼ぎに行く。高齢者の出稼ぎも多く見られ，特に女性では子育てが一段落し，家事から解放されたと思われる年齢層の出稼ぎが多い。年齢によって従事する職種にも違いがあり，全体で見ると建設業に従事する人の割合が一番高いが，若者は製造業，特に自動車関係の仕事を好む。

昨年の台風19号は平賀町にも甚大な被害を与え，収穫を間近にしたリンゴもほぼ全滅した。このときに問題になったのが果樹共済の加入率の低さである。これは掛け金が高く，そのうえ掛け捨てであるため人気がない。加入していなかった農家は被害分を自己負担するために出稼ぎに出掛けた。

平賀町の農業収入と出稼収入の割合は，平均しておよそ７：３であるが，出稼ぎ収入は完全に家計のなかに組み込まれていて，これがないと生活は苦しくなる。出稼収入は町内だけでなく隣接する弘前市にも落とされ，潤いを与えている。

出稼ぎには「余剰時間の現金化」というメリットもあるが問題点もたくさんある。出稼ぎはなかなかなくならないと思うので，出稼労働者の地位向上と長期的計画での地元における就労の場作りが望まれる。

平賀町の出稼ぎの要因は①冬に雪におおわれる冷涼性気候であること，②昔から貧しい地域であったために，遠くに出かけて，農作業以外の仕事で賃金を得ることに抵抗がないこと，③農業への依存度が高いこと，④地元に農閑期の余剰労働力を受け入れる就労の場がないこと，⑤共済加入率が低かったこと，⑥地元と首都圏の賃金にはほぼ２倍の格差があること，⑦特別な技能を必要としない建設業・製造業の求人が多いこと，⑧出稼ぎにも年齢にあった職種があり，高齢者でも働けること，などがある。このような要因の組み合わせのために出稼者が多く，また独自の出稼ぎの形態をつくっている。